

寄附講義「会社研究」 第10回目（第11回）

令和2年7月22日 13時10分

講師 株式会社アクト・玄々堂ホールディングス
代表取締役会長

花岡 雅州 氏

テーマ 人生は“選択”の連続

花岡会長は昭和56年に経済学部を卒業した四極会の先輩です。

選択の連続が人生である、これから社会人を目指す受講生は自分を前向きに肯定して人生最大の選択に挑戦するようにと説かれました。



株式会社アクト・玄々堂ホールディングス
代表取締役会長

ご経歴
昭和31年(1956年)生まれ。昭和56年(1981年)大分大学経済学部卒業後、三菱商事株式会社(本社)に入社。昭和62年(1987年)から平成11年(1999年)に有限会社花岡産業、平成11年(1999年)から平成21年(2009年)に株式会社アクト化成・代表取締役、平成21年(2009年)から株式会社アクト・玄々堂ホールディングス代表取締役となり現在に至る。

<http://www.agri-oita.net/mem.files/members/ber24.html>

前半はご自分の歩いてきた少しユニークな経験を語られました。

高校卒業に当たっては先生が丁寧な進路指導をしてくれるが大学ではそうはいかない。自分で選んで決めていかなければならない。自分と未来は変えられる。

入試や大学在学中は成績で評価されるけれども、企業の採用は面接で決まる。面接官は身ぐるみはがすように志願者の人物

を見極めるから付け焼刃では対応できない。そう考えて、面接のときに自分は何をしてきたとアピールする素材づくりに、学生時代の花岡会長が実践したのが海外経験です。一度は3か月かけてイギリスやドイツなど欧州諸国を歩き回りました。誰にも負けない身軽な旅行をしようと、Tシャツ、半パン、ビーチサンダル姿でアメリカにも行ったそうです。

その成果もあって、それまで経済学部の卒業生が入れなかった三菱商事に就職できました。会社員生活は楽しく、親しい友人もたくさんできました。

しかし都会生活に5年で見切りをつけて故郷の宇佐に帰り自分で事業をすることに挑戦。今や生活産業・医療・介護を三本柱とするアクト・玄々堂ホールディングスは、従業員1,100人、売上高100億円に迫る中堅企業になりました。

日本経済が海外に後れを取らないためには、中堅企業の活躍が欠かせない。県内にもたくさんある中堅企業は、簡単なことでは傾かないし、人材を大切にし、女性が活躍できる素地もある。生活コストも東京に比べて地元は安い。これから就職先を選択する皆さん、地元企業も選択肢に入れましょうと訴えて講義を締めくくられました。

